

春日井写真同好会 第134回例会記録

平成22年5月11日13:00~14:30
松寿会クラブ室

参加者 7名
小林・中井・福田・松倉
間木・村田・吉田

収量は名城が中心でしたが



by Yoshida



by Matukura



by Maki



by Aoki



by Murata



by Kobayashi

定番といえば、やはり名城を含む花の風景ということになるかと……。本丸の再建工事中で撮影ポイントに自ずから制約を受けるのはやむを得ないこと。こうして並べてみて面白いと思うことは、青木さんを除いて

他は光の方向や状態は殆ど同じという状況で撮られたモノでしたが、色上がりが違うということです。松倉さんと村田さんは、構図は違いますが同じ場所から撮られたモノと認識されますが、ハッキリ違いが判ります。小林はWBを「晴天(太陽)」に設定していますが、吉田さんとは同系の感じになっています。CCDまたはC-MOSで受光したものをメモリに記録する間で、それぞれメーカーの画像処理ソフトが働きますが、その処理の考え方に違いがあるのかも知れません。銀塩時代には、フジとサクラとコダックのフィルムによる色の違いはありましたが、カメラの差といえばレンズの色収差と解像度の差ぐらいではなかったかなと思います。簡単に撮れるデジカメと言われますが、本当はやっかいなカメラかも知れません。それをカバーするためにシーンモードや追随ピントなど、昔なら思いもしない高度な機能が開発されて搭載されているのではないのでしょうか。

写真にはドラマがある

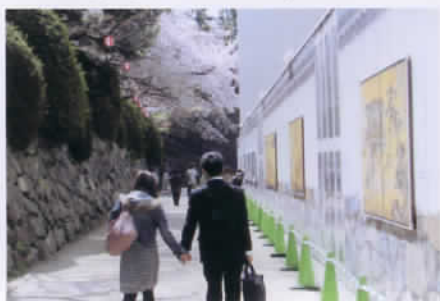
むかし、講師の先生に「写真に人や生きものがあると楽しく心が安まるモノだ。そしてそこにある物語を楽しめるような写真を撮りたい。」といった意味の教えを受けたことがありました。それが何十年も経った近年になって、何となく先生の話の意味が判って来たように思われます。そのようなことで、この度見せた戴いた堀田さんと青木さんの写真の中に興味をもったものがありました。そこで、ご兩人には無断で許可なく使わせて戴くことにしました。



人がどんな気持ちでこの場にいるのか、どんな家庭なのか……とか。

堀田さんの一枚ですが、左が原画で、右下に写っている親父さんと息子に惹かれました。

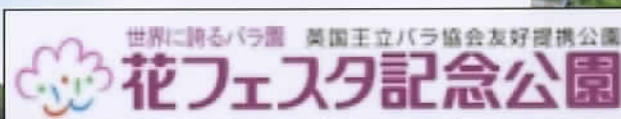
そこで親子を主役にするため、右のように二人を大きくしてみました。一般的には孤独な筈の父親が息子と二人きりで花見というのが、何故か気に懸かりました。二



左が青木さんから拝借した原画です。工事現場の塀が邪魔で、カットしたのが中の絵ですが、サクラとぼんぼりが逃げて意味がなくなります。そこで縦にして何とかサクラとぼんぼりを呼び出したのが右の絵になります。

二人がどんな関係にあるのだろうか。旅行中であるのは確かだが、名城ということで観光旅行のようでもあるが。それなら男性は何故スーツなのか、鞆がビジネスバッグなのか。これで新婚旅行なのか？ 後ろからは男性の状態が判らないが、出張と称して不倫旅行ではないか？ 等々想像を豊かにしてくれる。一寸場違いな感じの写真で、脚本でも書いてみたいような一枚でした。

次回、第135回の例会は



6月例会は掛川花鳥園に行こうかという話がありましたが、間木さんに色々調べて戴き、相談の結果、中央線沿線



からだと往復6時間を要することと、未経験の魅力的な施設で到底二三時間で見切れる内容ではなく、日帰りでは勿体ないということで、今回は見送ることになりました。

行くなら他に観て回るところを加えて、一泊で計画すべきだということになりました。



その代替として候補になっていました「花フェスタ記念公園」にしようということになりました。

数年前に行ったときと同様に「東口」の駐車場(700台)(無料)から入場することにします。近くですのでマイカーということになりますが、会社の北駐車場南出入口集合ということにして、相乗り・個別などは当日決めることにします。なお、多治見・高蔵寺など直行が便利な方は、その旨連絡の上、現地「東駐車場」集合でよいかと思います。

(春日井からは地図を用意します)

6月末まで休園日なし。入園料は¥800で高齢者割引はなしとか。



連絡は村田へ
0568-81-8283

と き 平成22年6月8日(火)9:30 会社北駐車場集合
ところ 可児市 花フェスタ記念公園